Laser Compass

「レーザー」の周りでうろうろと

角屋 豊 †

Working Around “Laser”

Yutaka KADOYA†

本号が皆様の手元に届くとき国内外がどのような状況になっているか全く想像できないところですが，この原稿を執筆している 4 月 26 日は，新型コロナウイルス感染拡大に対する政府の緊急事態宣言全国拡大措置から一週間余りのところです．レーザー学会会員の皆様も，公私ともに大きな影響を受けておられることと推察いたします．私の職場である広島大学も，今季の授業はすべてオンラインとなり，県からの休業要請もあって，ほとんどの研究室で学生は自宅学習，教員も多くが自宅勤務となっております．実験研究は実質ほとんど中断していると思います．ちなみに，先日の本誌編集委員会もオンラインとなりました．

私が「レーザー研究」誌の編集委員となって約 9 年になります．私自身はレーザーの開発は行っておらず，もっぱらユーザーですので，最初はレーザーをメインに据えた会誌の編集などお役にたてないのではないかとも思いましたが，実際のところ，本誌はレーザー本体だけでなく，応用に関するものも多く，さらには光学全般にわたって広く扱っているため，時折，特集の担当もさせていただきながら，少しは貢献できているかもしれないと希望的に自己満足しているところです．しかし考えてみると，これはひとえにレーザーという装置の有用性の大きさによるものであると言える訳です．もちろん，多くのノーベル物理，化学賞に直接あるいは間接にレーザーが関わっている訳ですから，当然と言えば当然かもしれませんが，改めて範囲の広さを感じます．実際，レーザー学会はいわば単一種類の装置「レーザー」を主題として成立している学会ですが，このような学会はどれほどあるのでしょうか．もちろん「レーザー」とひとくくりにするからだと言えなくもないかも知れませんが，少なくともどのレーザーも基本的な動作原理は共通です．私自身，広島大学着任後に光の研究に携わるようになり，興味のおもむくままに，テラヘルツ波，量子光学，プラズモニクスといったテーマを扱っていますが，大なり小なりレーザーの周りでうろうろしているということになります．正直なところ，編集作業を通じて，ますますレーザーと関連分野の広さを感じると同時に，テーマを変えたくなる衝動に駆られてしまいます．

ところで，ご承知のように，「レーザー研究」は解説記事と関連オリジナル論文から成る特集を主体としています．これがなかなか大変な作業であり，他誌では特集構成をやめたものもあります．しかし，毎月膨大な数の原著論文が発表される昨今の状況の中では，自身の専門から少し離れた領域の研究動向の把握は難しいため，一つのキーワードに関連した研究動向を（もちろんすべてを網羅することは無理ですが），一冊で読めるということは，大きなメリットがあるのではないでしょうか．今，日本のみならず，ほぼ全世界で様々な活動のスローダウンを余儀なくされていますが，この機会に，もう一度これまでに読めなかった特集を読みたいと思っているところです．一方で，数がそろわない突出した研究の紹介も重要ということで，神成副会長の提案により，今年から分野を決めないアラカルト号も時折出版の予定です．他人事の様で恐縮ですが，これもまた楽しみです．今後も，様々に工夫をしてゆく必要があると思いますが，私も微力ながら貢献できればと考えております．以上，とりとめのない内容となってしまいましたが，世界が一日も早くコロナウイルスの影響から脱却すること，さらには，このような脅威に対抗する上でレーザー科学・技術が貢献できることを祈念しつつ巻頭言とさせて頂きます．

† 広島大学大学院先進理工系科学研究科（〒 739-8530 広島県東広島市鏡山 1-3-1）
† *Graduate School of Advanced Science and Engineering, 1-3-1 Kagamiyama, Higashihiroshima, 739-8530*